

釜ヶ崎, あいりん体制, まちの変革 —招待講義記録から西口さんを偲ぶ—

西口宗宏 *

Munehiro NISHIGUCHI *

The Record of an Invited Lecture Entitled “Kamagasaki, the Airin System, and the Transformation of the Community”: In Memory of Mr. Nishiguchi

まえがき(水内俊雄)

西口宗宏さんは、2024 年 9 月 22 日に急逝された。64 歳であった。どこか生き急いでいるようなところがあり、心配はしていたが、それがいきなり現実となってしまった。そのショックは大きかった。

ここで紹介する西口さんの招待講義を行った 2010 年当時、ちょうどそれまでの約 10 年間、この地において、ありむら潜さん、織田隆之さんとともに水内も加えさせていただいた 4 人で、絶妙のコンビネーションを発揮しながら、新しい動きを支える裏方を担っていた。

西口さんはその中で常に触先に立ち、時代の変化を敏感に感じ取りながら、大波小波を果敢に、そして繊細に釜ヶ崎丸というかあいりん丸を操舵していたと言える。その腕前をわれわれは深く信頼しており、2010 年代に入ってから西成特区構想の 10 年においても、この地のキーマンとして、絶妙の操舵力を発揮してきた。それだけに、この喪失感は大いに大きい。

招待講義の紹介に入る前に、この喪失感をありむら潜さんが実に的確に小文として綴っておられるので、まずそれを紹介しておきたい(転載許可済)。

まちのキーパーソン ～西口宗宏さんを偲んで～

私は今、深い喪失感の海の底にいる。釜ヶ崎のまちづくりのキーパーソンだった西口宗宏(にしぐちむねひろ)さんが急逝した(享年 64 歳)。簡易宿所やサポーターハウスやゲストハウスのオーナーであり、第六町会長を一四年間つとめ、萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社の社長役であり、釜ヶ崎のまち再生フォーラムの副代表だった。釜ヶ崎で生まれ育ったことから、自分の立場を超えて、地域労働者や野宿生活に陥った人々の生活実相や心情も、支援団体の論理もよく理解でき、商売人としての才覚もあった。なので、いつも立場や利害の対立する課題での調整役だった。「自然発生的なまちの政治家」と言えた。2018 年に世界銀行が視察に来たとき、アフリカのある都市の首長さんが問うた。「宿を営営するあなたがなぜ、わざわざホームレスの人々を救済するアパートに転換したのか?」。彼いわく「あの人たちが現役時代にうちの宿に泊まってくれたおかげで、私は大学まで行けた。その人たちが路上生活をしているのを見るに堪えなかったからだ」と。視察者たちはその心意気に感動した。かと言って、彼は聖人などではなく、その反対だった(笑)。もともとサーフィンや沖縄が大好きで、やんちゃで、酒飲みで、要するに遊び人

* サポーターハウス協議会副代表／簡易宿所組合理事(当時)



この著作物はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利 4.0 国際(CC BY-NC 4.0)ライセンスのもとで利用許諾されている。

原著作者と出典を明記することを条件に、非営利目的に限り、配布、複製、利用することが可能である。

This work is made available under the Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 International (CC BY-NC 4.0) License.

This material may be freely distributed, copied, and used for non-commercial purposes, provided that the original author and source are cited.

だった(笑)。私たちもどれだけの量をいっしょに呑んだことだろう。それが肝臓や食道を傷めて、寿命を縮めた。私も罪深い。単純に波乗りだった(失礼……)彼を、「ご所有のホテル・サンをサポートィブハウスに転換して、まちづくりに参画しませんか」と誘い込んだのは私だった。そこから彼は稀有な才能を発揮して、上述のような役割を果たしつづけた。まちづくりは異なる多様な立場の人々の協力で進展していくものだ。我々のフィールドだと次のような人々だった。簡易宿所という超柔軟な居住資源を持つ西口さん。社会福祉法人等の施設活用に熟達した O 職員さん。貧困論やまちづくり論での知見や学生・院生というマンパワーを持ち込んだ M 教授たち。そうした人々が出会う場を設け、社会へのアナウンス役もする私などなど(僭越ながら加えさせてもらう)。釜ヶ崎のまちづくりの黎明期(2000 年前後)から見事な役割分担ができたのは誠に幸運、かつ効果的だった。今は、別れを嘆くより、西口さんに会ったことの幸運を噛みしめたい(涙)

(ありむら潜 福祉のひろば 2024 年 11 月号)



ありむらさんの言う、西口さんの稀有な才能—まちづくりに対する嗅覚ともいえるべき独自の技—を、西口さんがいなくなった今、活字として共有しておきたいというのが、この追悼の主旨である。

たまたま西口さんには、学生や院生を連れて現地で開催度々レクチャーをしていただいたが、その中でも特に印象深い招待講義を、映像と音声で復元している。

音声の方は、西口さんが大阪市立大学文学部・水内俊雄担当「地理学特殊講義Ⅰ」(2009 年度後期)の受講学生に対して行ったゲスト講演の書き起こしである。

講演は、2010 年 2 月 1 日午前 11 時から 12 時 15 分まで、西成プラザにて行われた。

また、映像の方は、翌年度と同講義(2010 年 11 月 6 日)でも西口さんに授業を依頼した際の記録である。その模様を、テロップ付きの動画として下記 URL および QR コードから視聴できるようにした。



https://youtu.be/Kl_eViVFHXo

生い立ち

簡易宿所組合の理事、それと町会長、それと釜ヶ崎のまち再生フォーラムというネットワークそちらの方副代表という形でやらせていただいております。あと NPO とかの理事とかもいろいろあるんですが、肩書ばかりならんでいるんですけどやることは私、これからのまちというのをどうしていくっていうときに、そこに住んでいる人、そこを利用しているひと、そういう人さよう知っとなあかん。

私の生まれた場所、4 と数字書いてあるとこ、西口アパートというのがありまして、そこで 1960 年に生まれました。今月で 50 歳になるんです。釜ヶ崎の第一次の暴動っていうのは僕生まれた次の年。それで全国的に釜ヶ崎っていうのが有名になりました。で暴動が起こって釜ヶ崎ってネーミングがやっぱり悪いん違うかってことになってあいらんっていう名前になりました。僕の話はあいらんっていう言葉はあんまり使いません。行政から押し付けられた言葉。それに、あいらん体制の中でこのまちが地域に住んでいる人であったり、利用している人、その人らの意向に関係なくまちづくりが行われてきた。こういうこと言うのは僕くらいだと思うんですが、そういうことを説明させていただいて未来にどう繋げていくのかという形で一時間ほど話をしたいと思います。

あいりん地域とあいりん体制

まずこの赤いところがこれがあいりん地域っていうところなんです、昔は一応あいりん地域として地図上にこういう線が出てたんですが、今大阪市に聞くと地域としての境界線は持っていませんという答え返ってきます。釜ヶ崎っていう部分になるともうちょっと小さくなるんですが、この三角形のところが釜ヶ崎っていうんですけど。そこに居てる労働者の方々っていうのは、ご存知だとは思いますが、やっぱりこう集められてきたっていう形跡があるんですね。1970年の万博に向けて、やっぱり万博っていうのは工事ぎょうさんあります。そこで人出が足りないっていうことで全国に声掛けて、全国から日雇いの労働者が集まってそれで、九州とかでもよくあったんですが、炭鉱の閉山の時期と重なっていますから炭鉱の方々が来られたっていう。それまでは一応部落的な形態があって、私がまだ子供のときには子供とか、家族連れの人とかも居ました。それを1970年万博に向けて簡易宿所を建て替えるようにという指導、お願いがありました。そこで行われたのが結局は単身の労働者のまち。人を集めることによって今の労働者のまちに。

その結果1970年以降に、ここに市立更生相談所っていうのがあるんですけど、もともとは愛隣会館。この斜め前にあるんですけど、で、愛隣会館って隣保事業で入ったものに、大阪市の市立更生相談所という労働者福祉の相談所として生まれた。あの一あのーそれ以降30年以上はこのまちはでさっきから言う、あいりん体制っていうのはあの一治安は警察、労働に関しては労働センター、それで福祉は市立更生相談所、それと医療に関しては医療センター、んで住まいに関しては簡易宿所。でここだけが民間で動いていきました。

あいりん体制の中で一番最初に行われたのは労働者に対して行われたのは仕事の斡旋。仕事の斡旋は公的なとこしかだめって決まっていたんですが、このまちでは、手配師っていう仕事を斡旋する人がいはるんですが、このまち早く来たら車が止まってて仕事の内容と値段が書いてある車が止まっていて、そういう仕事を

斡旋する人が多々おられます。でもそこには法律上目をつぶったんですよ。

その次に目をつぶったのが屋台の問題であったり、犬の問題であったり。屋台は最近はなくなりましたが、小学校の横にずっと屋台が並んでたり、ゴミの問題であったり、犬の放し飼いの問題であったり、あと大きいのはシャブ、覚せい剤の密売という問題の中で、それを目をつむって全部抑え込んできたっていうのが今までのあいりん体制の中で行われてきたです。

簡易宿所の危機、新たな挑戦！

だから町会員っていうのは10%弱です。労働者っていうのは90%強っていう中でできました。1990年代くらいに入ると野宿っていう問題が出てきました。野宿の問題っていうのはやっぱりこのまちの元労働者の人が野宿になったり。そのことによってどないかしていこうっていうのが釜ヶ崎のまち再生フォーラムで、いろいろ考えていく中で簡易宿所、大阪の場合は旅館では生活保護は受けられません。東京・横浜では受けれたんですが、大阪では受けられないということで旅館業を廃業して、共同住宅に変えていく。

もともとこのまちは簡易宿所200軒くらいありました。で、今やってるのが、80軒から90軒くらいだと思うんですが、で逆に共同住宅に変わったところがやっぱり80軒、90軒くらいになって、要するに半分ずつくらいになってあとの20軒くらいは老朽化であったり、廃業という形になっています。

それで高齢化が進んでいる、じゃあ、次の未来はどうなっていくんや。労働者集められた1950年代・1960年代に集められた人、この人たちが年老いていったらどうなっていくか、あるいは死んでいくしかないんですが。死んでいくってじゃ今人口比率でいう90%が労働者。その90%の労働者の人たちが居なくなる日がいずれ来るだろう。そうなったらこのまちってどうなる？

じゃ今考えられるのは今ほんまに、生活保護支給でなんとかしのいでるまちなんです、生活保護者が亡くなっていく時代にいずれなっていくでしょう。そのときに何をしたらいいのか、だから今のうちにある程度次のこ

とを考えていきたい。でなるか、ならんかわからんけど、そういうことに挑戦していきたいとそういう風に考えています。

新しい取り組みに向けて:排除につながらない

観光化のことについてお話しと思うんですが、OIG (Osaka International Guesthouse) 委員会の委員長をしているんですが、なんで僕が委員長をしているのかという話になりますが、やっぱり労働者の排除につながるんじゃないかっていう意見、金儲け主義で労働者の排除に繋がるって言うときに、私なら労働者に説明できる。逆に言うとお金のほうでいうと、貧困ビジネスちゃうかっていわれたときに町会の方に説明できるっていうことがあります。そういうことで私が委員長をやらせてもらっているんですが。それと私、商店街等とも町会の関係で協力と要請もできるとうことで忙しい中で委員長をさせていただいています。

それでこのまちっていうのは、悪いこと多いと思うんですがこのまちの利点って何か言える方おられますか。このまちの利点はね、交通の便なんですよ。こんなに交通の便のいい場所ってね。次に変えていく時期、そのためのためにそろそろホンマに動かなあかん。っていうことで誰もいなくなるという危機感の中で、それでこのまち自体、面積一番占めているのは簡易宿所。もともと200軒くらいあった簡易宿所。その人らが生きにくい場所になっていく。労働者が減っていく、高齢者が減っていく。面積を持ちながら次の絵を描かないということは、お金のある資本に買い漁られていって、もともとこのまちを利用していた人たちが、このまちの再生というものやまちづくりというものにまったく関係の無いところに押しやられたという結果になりかねない。

まちの体制は、まちづくりの拡大会議

それにどんだけ対抗できるか、どんだけ真似ができるか。今まで言ったように長いあいりん体制の中で全然まちづくりであつたり、まちの意見って聞かれること

が無かった。というのも屋台の問題、去年の12月20日くらいには最終的にはカタはついたんですが、この問題も30年間ほったらかしにされてきて、というのも今までの歴代の町会長、連合町会長、小学校の横にありましたもんでしたから、PTA 会長、というのは役所に何とかしてくれという要望を出しました。けど、一切動いてくれません。理由は暴動につながる恐れがあるから。要するに、労働者の人が暴れだす恐れがあるから。で労働者は違う問題という、地域のほうの同意が得られてないなど、真つ二つ状態。それではこれから衰退していくであろう、このまちのまちづくりが出来ない。ということで、

おととしの12月にまちづくりの拡大会議で労働者の代表、小学校の校長、それに地域や、簡易宿所組合、それと街づくり研究会、それと保育園、それと子ども会、そこで屋台の問題やっぱり問題あるよ、と。子供の環境守るのが大人の責任。で子供をどれだけ大事にできるか、で一致しまして、それでやっぱり屋台の問題がちよっと出てきまして、小学校の横とあとわかくさ保育園っていうところの横にありまして、それが30年以上無視していたのが、みんなで話し合えた結果です。と言うことで、役所としては逃げようがないんです。今まで意見が一本化されてないから、動けないという理由を挙げていたんですが、そこで根回しが全部合っていたんですが、役所にいうてもなかなか話が通らない。それが一年位、根回し終わった時点で、お前ら何しとんねん。こんな状況になって先が見えへん。今問題解決せんかったら、未来ないねん。という形で説明していったら、暴動も起こりません。

これだけの人と話をした結果ですと言ったら、やっと政治家が動き出して、そこで次に平松市長、市長来ても彼もド素人さんですから、このまちに関しては。問題は重複して山積みされていますからそれを解いていくのは難しいですね。難しい問題がなんとか考えていきますってね。ようするにお断りの言葉ですね。私その場におったもんですから、いや簡単なことからやってください、とりあえず犬の問題、こういうやり方あるでしょという、じゃあ出来ることからやりましようという形で。

やっぱり言えるのは地域の中で何が出来るのか、政治家であつたり行政であつたり、今まではそういう手法でこのまちずっと来たんですが、このまちのなかで意見をどないして集約していくのか、その人口比率の問題を乗り越えてどうやって集約していくのか、で、そこが乗り越えれたら、行政も政治も見えてくれる。いう風な私たちで今回は動いてくれました。一回動くとも用意していかないと、止まると彼らも逃げてしまうので次のこともやっていきたい。未来につながるということで。

このまちのポテンシャル

これは私だけの考えなんですがこの立地条件の中、もうちょっと活性化できるだろ。観光化に向けて、地図でみますと、ここが新世界ですよ。串カツブームでいっぱい人来るようになりました。じゃんじゃん町、商店街、この辺が観光の人、去年でも8万泊くらい来てると思うんですが。要するに大阪に来ている5%強の人がこのまち、海外から来て利用しているまち。

でここに動物園前商店街っていうのが点線のところにあるんですね。そこが全然活気づいてない状態。でここが今宮商店街、ここが萩之茶屋商店街という形でこの商店街が全然利益がない状態。要するにここに泊まりに来た人が泊まるのはここ、食べるのはここ、遊ぶのは難波。難波からこう、ここに泊まって、で、ここに泊まる理由っていうのは南海があつて JR がある。関空行くのに唯一なんです。二つの線が使えるって要するに、阪和線ってすごい人身事故とかが多くてよう電車止まったりします。それで止まってしまうとここなら南海で行くこともできる、南海に何かあったら JR で行くことのできる。唯一の場所なんです。でここで今観光化っていうのを進めています。

国際ゲストハウス化を利用したまち変革の芽

ここの商店街の若手をそろそろ観光化っていうものを意識してメニューの多言語化などを進めてきました。で、ここの白い部分なんですが使われてないんです。こ



水内科研香港ホームレス支援調査の一コマ
2003年1月(垣田裕介氏提供)

れず一つと南海線が天王寺と天下茶屋を結んでる線があつてこれ廃線になって、ここが全く使われてない状況それをさっきいうた屋台の問題であつたり。

そのときに考えたのは、六町会という町を作るときに排除しないでみんなで食っていけるまちという理念作りました。でそのときに排除しないと創ったもんですから、ここを排除してしまうと、ここの屋台を排除してしまうということになるので、それならこっちでルールをちゃんと決めここで屋台をやってもらうと屋台街が出来るんとかうかがで要するに海外のバックパッカーの集まる場所の近くに屋台街があるんですね。それでやっぱり

屋台街がここに出来たらこの観光客も流れていってくれるであろう。要するにでこの商店街を通してここに入るといふ、出たらこっちに…

海外のバックパッカー集まるとこってのは近くに屋台街が大抵あるんですけども、それというのはやっぱり屋台街がここにできたらこの観光客も流れてきてくれるやろ、要するにこの商店街を通してここに入ってくる、出たらこっちの商店街、こっちの商店街ありますから、ここまで来たらこっち行くやつとか、こう回っていくやつとかの人の流れてできるんちがうかな。それと、今ここまで人が来てるんですね、ジャンジャン町のとこまで。じゃ、この人らもここに住んでいる海外の人とか、観光に来る人らがここに流れていくようなだけやなく、こっからも流れてくる可能性あるん違うか。まあそういうカタチで、ここの道の使い方、今はフェンスの中なんでその使い方を考える。

既存の施設にまちづくりの目玉や新しい機能を

で、つい最近なんですけど、あいりん総合センターのまわり、ここの部分をどないか使われへんかと。いやそういう風に。ここのもと 200 軒の旅館があった地域で、200 軒というのは部屋数にするとだいたい 2 万室ぐらいあります。で使ってるのが、その住民といわれる労働者の人ということになると、最大の避難場所というのはここなんです。小学校、中学校。まあこっちにも高校もあるんですけど。その 3 つになってる。で、労働者の人と、あの一地域紹介の人が一緒に交わってしまって、で結局、災害が起こると地域の人がお世話する。全く人口比率が違うなかでそういう風に行政の押し付けですね。他の地域とおなじようなかたちで持ってる部分ですが。ここあいりん総合センターが、耐震の補強するっていう話ですからその時は耐震の、災害が起こった時の避難場所として、労働者の避難場所として確保できるん違うか。

それとも 1 点、ここの地下の部分に、あの一シャワー室と、クリーニング屋さん入ってたところあります。でこの地域のなかで、SHINGO☆西成を知ってる方もおるかもわかりませんが、あいつ頑張ってくれて、

SHINGO☆西成はミュージシャンで頑張ってくれてます。でそれから、結構三角公園の夏祭りであったり、越冬であったりというときに歌うたってくれたり、そのかたちで色んな歌手等が入ってきたり、中にバンド作ってる人、その人らも三角公園でライブ見たり、その若い子らの芸能活動つちゅうか文化発信として、その地下の部分でライブハウスにできへんかと。地下になりますからここに住宅あるんですが、そこにも音響かへんやろういうかたちで、ここの部分で若い子、まあ駅近くやしライブハウスっていうかたち、まあイベントルームでいいんですが、そういうかたちをつくる。で、こっちには観光っていう、屋台と観光っていうかたち。人の流れ出てくるんちがうかと。

仕掛ければ、街はおのずと変わる

それと、そういう風に人に使ってもらえる街っていう風になると活性化する、ほんならもう、その時にはたぶんもう高齢化の年がきている人が多くて、この辺が空いてしまう可能性がある。つまりここに活性化すれば仕事があるわけですから、ここに人住みだしてやるんちがうかと。それも、ファミリータイプが住むようになってくる可能性がある。それとさっき言ったように単純に仕事している人も住むような展開にもなってけへんかと。地域の活性化で、生まれたとこで仕事するファミリーというのが出てくる。

ファミリーにこだわる仕掛けも

っていうのもこのファミリーにこだわるのも、さっきこの利便性がすごい良いとこですって言うんですが、子育てにとってもそうで、さっきのとこにもあったんですが、子どもの里とか、子どもの家、山王子子どもセンターという、子どもの面倒見るところっていうのが3つもある地域。この範囲だけで3つあるんで、ようするに共働きの人も子どもの、学校終わったし保育園終わったし、そういう面倒見てくれるとこも結構整ってる。それもみんなキリスト教関係で、子どもの里なんかは、あと山王子子どもセンターは夜回りしたりするんです、野宿して

いる人のとこ夜回り。ようするにこの街で苦しんできた労働者の人たちの生活であったり、今の実態であったり、野宿している実態なんかを繰り返子どもたちが今もう出てきて高校生になったり、でこの子らが次の世代の子どもたちを世話していると。学童保育、そういうかたちで3つあるわけですから、そこと小学校、保育園、それを繋げていく。

あの子ども、ここまで「子ども会」のものでしたら、子どもが公的に来るのが小学校と保育園なんで、その子どもたちの繋がりというのがあり、今も70名ぐらいの生徒というのが萩之茶屋小学校、そう廃校の問題もでております、でもこの学校を無くしてしまうと次ファミリーになる可能性がある、こんなに立地条件が良くて子育てもし易い可能性がある街をファミリーにオープン化しないってというのはおかしいんちがうか。あとは観光化、ファミリー。

うまく機能分化を

それとやっぱりこの街ってというのは一人一人が住みやすい街っていうかたちで今までできています。まあ環境的には住みやすいとは皆さん思わないと思うんですが、一回このなかで生活してしまうと出て行きにくい、色んなサポート等もありますし物価も安いですが、一人で住むには最適な地域というのが今までからずっとあるんです。それを支えていくような団体というのも多々あります、ていうことは一人でも住みやすい街の部分、それとファミリーが住む部分、それと観光化。ていうかたちでやっていけば、この街ってというのはまだ利用してくれる人っていうのがずっと続いていく。

労働者にもきっちり選択肢を提示

でも今とりあえず行政の、あいりんの名のもとに行われてきた労働者一色の街、今は生活保護と労働者の街。それがある程度終焉を迎えるとその人たちの排除につながっていく。そういうことで、排除に繋げないようなかたちでどうやっていいのか。ていうことは労働者が抱えている問題だったり野宿で抱えている問題、それを

どう解決していくか、それと街の問題を一緒にレベルで考えていこうというのが最近起こってきている流れ。ようするに、この街の中、ここの公園、それと三角公園なんです、この3つの公園てのは結構野宿されてる方が多いんです。で大阪市全般でいうと、大阪市のほうが、巡回相談員を回してるんですが、このあいりんの街ってのは巡回相談員が回ってきません。なんでなんかわかりませんが、ようするに野宿状態もほったらかし。で他のところで野宿の人をみつかったここのなかに入れてるというケースあるんですが、まあこれも施設、そういう施設を使いながら、野宿の問題施設色々使いながらやってきた、ようするになんかあったらこの街に持ってきてるというのがあったんですが、この街の中の問題で言うのは全然解決されていない、未だにされてないままで。

たとえば今宮中学の横の道があるんですが、ここを行政代執行というかたちでブルーテントを取りました。したら隣の公園にテニスコートがあったんですが、このテニスコートにみんな入り込んだ。そこでそらおかしいやろて言うたら、(行政の人が)いえ、私らは道路管理者であって公園管理者でないもんですからってことで何十年もほったらかし。でここには何の相談業務もなく、この地がずっと押し込まれてるっていう状況です。ようするにこれから言いたいのは大阪市全般でやってることも、この街に入れてきてよ、ようするに巡回相談員の人が回って一人ずつ丁寧に見て自立支援センターに行くなり、まあ生活保護というかたちも選べますよというようなかたち、なるべく選択肢を用意して説明していけば、そこで我慢して今野宿されている方が、どっかそういう形で動いていこうかというようなことになる。ようするに、野宿の問題でいうのをある程度解決していく。

ちゃんとした認識で、住民票、定額給付金問題

それと労働者が抱えている問題ですよね、労働者の人、今でも6000人ぐらいは常におるかと思うんですが、住民票を持ってない方が多いといわれるんですが、逆

に持つてる方も多いんです。ていうのは日雇い労働手帳ていうのがあるんです。失業保険のための手帳、あるんですが、それを作るのに簡易宿所の宿泊券、宿泊証明でくれたんですが、2006年にやっぱり住民票がないとダメっていうかたちになりまして、そこで起こったのが3年ほど前にここにある解放会館ていうところに3500以上の住民票が流れ込む。で他の方は簡易宿泊所にあるとか、それと釜ヶ崎支援機構、ふるさとの家であったりというところに住民票。その人らが一斉に住民票が奪われました。

ようするに今の時代は仕事行くのに身分証明必要なんです。そういう免許証持ってないとか、パスポートはもっと持ってないやろし、そこで自分の身分証明ができる、せなあかんのでここに住民票が集まった。その住民票を次は職権消除にきた。まあ裏ネタでいうと、ある市議員が、ここの生活保護増えてるんで一気に選挙行きだしたら怖い、やから住民票先取ってもうたろうのがもともとはじまり。でその言い草が生活保護を不正に受給するためにここに集めたんや言う話ですが、生活保護受けるのに住民票必要ないんです。思いつきリド素人の発想、でそういうことを言っていく。

そのあとこの前起こった定額給付金ですよ。住民票ない人には貰えない。日本国民全てに渡します、在日の人にも渡しますて言うたのに、日本の国にこうやって働いてきた人、その人たちに住民票を奪い取るだけ奪い取って定額給付金も貰えてない。そういう不条理なことが起こってます。そういうことを、僕一応町会長なんです、これ当たり前なんです、これ今までの高度成長期の中でここはね、店すれば流行る。人口密度一番の密集地域ですから商売すればなんでも流行った。ずーっとそういう時代来ました。でもこれから先はそれが衰退していきますよ、その時どう考えましょていうかたちなんのですが、その時には労働者の抱えている問題において理解したうえで商売も一緒にいかなあかんやろし、まちづくりもしていかなあかん。そこに切り替えれる人がどんだけおるかねってここのまちづくりが変わっていくやろし。

町会員の意識も高めなければ

で現に私、町会長やってるんですが、西成区で一番若い町会長です。42歳からやってもう8年目になるんですが、それでも未だに一番若い。ようするに周り、いくつやねん、いつのおっさんなんか、街の代表としていてんねん。ほんまに衰退していこうとするこの街の中のことを理解できているか、したらやっぱり、半理解ていうのが多いんです。ようするに、労働者との話し合いがなかったために暴動が起こるたびにみんな被害を受けます。で、みなさんこの街、親御さんとかに聞いたらたぶん言われると思うんですが、暴動で暴れたおす人たちていうのをマスコミが取り上げてそこだけで、その理由ってなんで暴れたんかっていうの全くなしのまま来ました。

理解の貧困が招く誤解

ようするにそれで原因の一つとして起こったのはやっぱり、結婚差別なんですね。ならここで商売してます、お嫁さんほしいです、でも家もここ、商売もここ、ならその街の中で、うちの娘そんなこにようやりませんていうような結婚差別と、逆に娘さんの場合は旦那にここに来てもらってここで商売続けたいと思っても、そんな怖いとこでよう就かん。いうかたちでそれも、あと就職差別も起こってきました。

それていうのは地域の町会の人から見たら労働者が暴れたからや、そこで解決してるんですが、一番最初、暴動起こったんが、この交差点ですが、この交差点でタクシーに労働者の人が轢かれました。でその建物のところに警察、ポリボックスありまして、そこに駆け込んで、轢かれた、救急呼んだってくれと、来た時ムシロ被せたんです。息ある人に。昔亡くなった人にムシロかけるのは分かるんですが、息ある人にムシロかけて救急呼ばなかった。それでほんまに死んでしまうた。それでなんちゅうことすんねんということで、暴動が起こったと。やっぱり大きな暴動ていうのはやっぱり警察が人権を無視したか、行政のものが人権を無視したか、そういうことで起こってるわけで、地域のなかの人の揉めて大きな暴動って起こったことないんです。

そういうことで何が悪いねんていうことを、ほんまに現象だけを見てきた世間の人であったり、この街のある程度の高齢の人、そこの理解が薄いんちがうかなと。でそこを理解してもらったら、そうじゃないと、やっぱり人権であったり、彼らの生きることをもっと大事にしていけないとそこはもうあかんのよと、次の発想は無いのよと説明するんですがやっぱりその暴動ていうのを恐れてるというか、その亡霊ばかりを追いつけている行政、それと地域の町会という部分。もうだいぶは変わってきたんですが、ここ1から10まで十町会ありますが、だいぶ意識変わってきて今4つぐらいの町会、まあ次今度になって5つぐらいの町会がたぶんその辺が理解できる町会っていう連合町会っていうかたちに変わっていくかな。

未来のために、こどもらにつなぎたい

でやっぱり選べることといつも言い続けるんですが、僕ら何のためにやってるんか、未来のため、子どもらに繋ぎたい。僕だってここで生まれたし、HY君の場合は彼で5代目なんですけど、明治時代から。で、私は2代目ですが、やっぱりこの街っていうのは僕らの次の世代、僕らの子どもたちにもやっぱり利用できる街になってほしい。で、後輩たちもいっぱいいてるんで、その後輩たちにもここでやっぱり仕事や商売をし続けられる街になってほしい。そのためにはやっぱり街を利用する人たちっていうのをどんだけ呼んでくれるか、どんな街にするか。そこまでの発想がどんな街にしたいんやっていうようなかたちが見えてくる。それをまた種蒔いて引き出すことは今始めてます。

というのも、色んな取り組みっていうんは市のほうからできるんですね。この1から10までの連合町会、この連合町会は西成区に16個あります。で16個あって、それで運動会で1位から16位まで決めていくんですね。んでこの地域はもともと14位とか15位の地域で、萩之茶屋連合ていうんですが、萩之茶屋は無茶苦茶弱いと言われてまして、で私一応その町会長なったとき総監督するようになって、もう今は強いっていわれるようになったんです。子どもの数は減っていつてる。子ども

の協議体はあるわけで、でやっぱり若い身体動く人が出てもらわなあかん、特に多いのは子どもがいるのはこっちの26号線より西の地域になってしまいます。私は26号線より東のこっちの釜ヶ崎です。でこっちの西の地域の若い人がもう一緒に協力してやってくれる。で子どもたちも協力してやってくれる。そのことによって、ここの地域、弱かった地域が今やもう優勝候補に名前が出るような地域になった。

なんでそんなことムキになってやったんやというやっぱり未来を背負う人に意識持ってほしいと。未来を考える人に意識を持ってほしい。で子どもたちもやっぱり今はもう、おっちゃん、今度も頑張るなと言うてくれるようになる、ようするに子どもたちも、楽しくない子どもたちですらかなりこうやる気がボンボン出てきた。でやっぱりその若い人たちの力っていうのを結集していつて未来にも残るか。んで、そこでやり方がまずければ、高齢の先輩方がこういう風にしたらええんちゃうかと、そこ訂正したらええんちゃうかと。

意識が変われば、行動も変わる

そういう風な雰囲気になってきて、ほんで労働者の方、生活保護受給者の方、特に生活保護受給者の人の生き方っていうのはこの街の中で、かなり順位を引っ張ってくるだろう、この人たちが住民意識が薄ければ、やっぱりその辺で立ち小便したり、酒飲んだりということじゃなくてやっぱり未来のまちづくりっていうのにはマイナスになっていくやろう、んじゃあこの人たちが街のお手伝い、公園等、学校等のお手伝い、公園の管理というのは地域町会でされますから、地域町会に高齢化が進んですが、その人口比率というとかかなり少ない人たちで公園の管理やってます。そこに生活保護受給者の人が草抜きであったり、管理の手伝いであったりというのかたちで子どもたちの運動会の設定であったり片付けであったりっていうのを、そういうのをずっと続けていく。そしたらやっぱり人の目に触れるわけですから、何年もやっていけば子どもたちも大きくなっていくし、父兄の人も知り合いになっていく。んじゃ知り合いがようさん

増えることは小便したり、その辺で酒飲んだりし難くなる。

まだみんな子どもの中歩いてないそうですが、あの道に座り込んで酒飲んでる人ってようさんいると思います。多い日でだいたい 200 人ぐらいおるかもわからん。でもさっき言ったようにここの街には 2 万室の部屋があります。そこで 200 人ですから、もうパーセンテージにしたら、すごい少ないんですが、街を歩いているそういう人が目につくんで、そういう人たちの街やと思われがちなんです、実際はアルコール飲まない人結構多いんです。私もサポーターハウスというのをやって今 100 名の人が住んでますが、半分以上はアルコール飲まない。

まあ僕らはお話しや研究会や集会やっちゅうて、毎回その後で、飲み会を開きます。で、飲み会で交流っていうかたちで色々情報を頂んですが、まあかえってここの労働者っていうのはアルコール飲む人が少ないって言われたそうです。飲む人がやたら飲むっていうのはあるんですけど、低い理由もわかりますよね、高いところで仕事したら危ない現場に行きますから、酒飲んで行って事故起こしたら二度と雇ってもらわれへんとか、それとか、自分の身体が危ないということで身体資本で生きてる人があまり酒飲むっていうのは良くないと思うてる人はやっぱり多い。とまあ当然かなあとは思いますが、ようするにそういう人たちの力をどないか、内外の活動であったり、災害の時にその避難や救助でお手伝いしてもらおうとか、なんらかの組み合わせを作っていくことによって、ここの街を利用している人の力をまとめ上げていく、まとめ上げていくことによって環境というのにも切り込んでいく。環境に切り込んでいくということは次の未来のまちづくりに繋がっていく。

やることをちょっとずつやっていこう

それからあの、社会福祉とかそちらの学生もよう来るんですが、結局大事なのは人大事にせなあかん。福祉が大事、福祉によって未来の活性に繋げていくことができる。そのモデル地域になるのはこの地域や。それも長い間、時間かけることができないもう衰退の方

が早く進んでますから、またすぐにでもここは取り組んでいくことによって、ほんまに今までのまちづくりっちゅうカタチやなくてね、ほんまに一人一人が福祉っていう部分で、社会保障っていう部分で守られながら生きていく。それを真に迎えたら、次は活性化が大きくなっていった、次のファミリー型の将来に、そうしたら人数が減っていったる小学校っちゅうのは統廃合せずに残しといてもらうようなまちづくりであったり、そんなもん一回なくしてしまうと次つくるわけいきませんから、そのために、これ残して次のまちづくりの要として学校は残っていく。

ようするに、言いたいのは今までとガラッと変わるんじゃないなくて、やることをちょっとずつ変えましょ。まあここに、医療センターってあるんですが、医療センターも今もう利用する人はかなり減ってます。でも労働者の数が減ってるから減ってるんというのも違う。そうしたら、労働者も受け入れるような体制を取った病院、地域の労働者がほんまに困った時、高齢者が、使えるような病院に変えてもらう。昨日ちょっと前にやってる、労働センターもそうしてる、労働者が減ってるんで、もうちょっと地域の防災拠点であったり発信基地であったりという部分。で、一人づついてる人に対しての支援とかできる、ポイントとして残っていったほしい。

でまあ、ここにある NPO 釜ヶ崎支援機構、日本最大の NPO の一つなんです、そこも高齢者のあとは次はまちづくりとしての関わりを持ってほしい子どもたちとかのことを色んなかたちで後押ししてほしい。でまあ先ほど言った3つのこどもの世話する学童保育のところがあ。

一番変わらねばならない簡宿業界

ある意味一番関わらなあかんのが、このでかい建物をいっぱい持っている私たち簡易宿泊業界なんです。1980 年代に、一斉に建て替わりました。今の建物は 1980 年代に建て替わってるんですが、ようするに私たちの親であったり、私たちの先輩が一応何年かけて建て替えてるわけですよ。未来があると思って建て替えたんですその時は。それが、今のままやったら未来が

あんまり見えてないんで、そのまま廃業して転売していくってのはできそうや、そうじゃなくて未来をここで描くことによってこの 1 番上をちょっと占めてる、こちらの市営住宅あたりがが一人で住めるスペース、まあワンルームであってもなんでもいいからそういうスペースを作る、で逆にファミリーでも住める、今は一人で住むとこばかりなんですけど、それがファミリーで住めるといふカタチ。そこに挑戦していくというそういうまちづくりの絵ができればそこに挑戦していく人も増えるやろう。

しんどいからこそ、やれるまち

やからこのまちづくりっていうのは、ほんまに地域の
中の合意、それと地域がどう生きていくねん、一般的
なまちっていうのは高齢化の問題であったり、少子化
の問題そだけで済むんですが、ここの街の場合はほん
まに無くなっていってしまう、今までいてた人が全く分
からんくなってしまいうっていう危機感かなり強い地域
なんで、今ところ日本で一番ひよっとしたら変われると
こかなあと。で変わり方も簡易宿所が共同住宅になる
なり、ワンルームになるなりっていう立地状況に根差
しながらちょっと変わっていく、それを大きく変えましょ
うということになるとみんな怖気づいてしまう。だから簡
易宿所以外のところは小さくちょこっと変えるだけで済む。
で簡易宿所は昔建て替えた経験があるんやから、もう
いっかい借金で店建て替えてこの街を維持して、次の
展開の街つてうのを作っていきませんかとかたち
で。

全然取りとめもない話なのですが、ようするに過去があつて未来があるよと、未来っていうのはまた違う絵をある程度用意していないと今の行政だけの街づくりっていうのは未来に繋がりません。学校等の統廃合

の問題で役所と話したら、未来を見て考えてるかとか、えんと学校を無くすのはおかしいんちゃうのと、その面積をどうしようと、僕たちももう、まあ役所の人は「僕たち」って言いませんが、ここ数少ないだけで終わってどうすんねん小学校やら、それだけで店じまいさす必要あらへんがな、未来考えたうえでここが必要かどうか、その話し合いもせんと何ぬかしとんねん、というのが今の街の流れ、普段役所の人にはそういう言葉で言います、ほんまにそれぐらいの気持ちをもってこのまちづくりちゅうのをやっていきたいなど。

でもある程度後輩たちが集まってくるようになってきてます。簡易宿所の組合でも私入った時は 2 番目に若かったんですが、今やもうかなりだいぶ年齢も上になってくるようになりました。ていうことはみんながこのままやったらあかんと思うから、若い人たちが色々とこから現状を聞いてきてくれる。町内会の人もしかり、地域の中でやってた運動やってた人らもしかり、次をどう描くんやっていうことで、一本化される。右肩上がり
 の経済の時は別に一本化されんでもみんないけた。でもみんなが思うてんのは右肩下がり、右肩下がりやからどないかこの街っていうのをやっていこう、やっとその辺の意志疎通がとれるような状況になってきた。あとはどんなグラウンドデザインを用意するのか、ということで、そういう時は学生さんであったり、大学の先生等、意見を聞かしていただきたい。あなたたちもまだ若いんで、もっとこんなことしたらおもしろい、もともと何も発想無い地域ですから、なんかおもしろい、おっちゃんこうなったらおもしろいちゃうっていうのあったら、またドシドシ教えてもらえたら、やれることは取り組んでいっていきたいと考えております。話長くなりまして、ありがとうございました。